

おはようございます。来週の聖句を紹介します。

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」

ヨハネによる福音書 15章 13節

私たちは小さい頃から、「命が一番大事であること」「自分の命も周りの人の命も決して傷つけてはならないこと」を教えられてきました。そのため、この聖句を読むと、最初の「自分の命を捨てる」という言葉にぎょっとするかもしれません。しかしこの言葉は、命の価値と愛の本質について、深く問いかけているように感じます。

命とは、一人ひとりに与えられた一度きりの贈り物です。取り替えることも、やり直すこともできない、かけがえのない宝物です。「命の尊さ」「命の輝き」という言葉が示すように、命はただ生きているだけではなく、誰かを思い、誰かとつながることで光を放ちます。では、なぜ「命を捨てる」という行為が“最大の愛”だと言われるのでしょうか。

それは、「自分を犠牲にしてでも相手を守りたい」という思いが、愛の究極の姿だからです。命を懸ける覚悟は、言葉だけでなく行動によって示される深い愛の証しでもあります。

私たちが日常生活で命を捨てる場面に出会うことはほとんどありません。しかし、“命の重さ”を知り、“命はつながっている”という意識を持つことは、互いを大切にし、支え合い、命を守る生き方につながります。

「命は一人のものではない。誰かの笑顔や未来と結ばれている」——このことを忘れないでください。

“命を捨てる”という言葉、私たちの日常に引き寄せてみると、たとえば、友達が落ち込んでいるときに予定をキャンセルして話を聞くこと、疲れていても誰かを励ますために笑顔を向けることなど、「自分の時間」や「自分の心のゆとり」を差し出す小さな行為として置き換えることができます。それもまた“無償の愛”や“自己犠牲の愛”と呼べる、尊い行いです。そうした小さな一歩が、誰かの命を照らす光となり、同時にあなた自身の命を輝かせてくれます。

2月14日のバレンタインデーは、世界では“大切な人に愛や感謝を伝える日”として親しまれています。この聖句のメッセージを心の片隅に置きながら、チョコレートとともに誰かに感謝や思いを伝えられる一日になれば幸いです。

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」

ヨハネによる福音書 15章 13節